

令和3年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 十日町福祉会	代表者	村山 薫	法人・事業所の特徴	十日町市の中心部に位置する事業所の利便性を活かして、街中や地域での行事にご利用者も参加しています。また、地域の人たちが住み慣れた地域での暮らしが継続していくことができるように相談等も受け入れをし、積極的に対応していきたいと思います。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 事業所三好園四ツ宮	管理者	春川 さとみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	3人	0人	0人	2人	1人	0人	3人	0人	9人

項 目	令和3年度の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	令和4年度の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価の確認がしやすいような説明等を加えてわかりやすくします。	自己評価実施後、委員会の際に説明を加え、状況の理解を求めました。事業の日誌は、ソフトを活用し、効率化を図りました。	職員が自己評価に取り組んでいる姿勢はうかがえました。	統一支援の徹底を図るとともに、接遇マナーの向上に取り組みます。
B. 事業所のしつらえ・環境	心地よい環境を作るとともに安全で清潔が保てるよう環境整備に努めます。	外出等ができなかったこともあり、室内装飾等で季節を感じてもらえるようにしました。	意見はありませんでした。	安全、防災を意識した生活空間を意識した環境づくりを行います。
C. 事業所と地域のかかわり	新しい地域とのかかわり方を検討します。	今まで通りの関わりができなくなり、今年度は新しいかかわり方を模索しました。	コロナウイルス予防の中での取り組みは難しかったと思う。	施設からの積極的な地域への発信を行い、施設の様子を知ってもらいます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事が再開された場合には積極的に参加し、介護支援専門員を中心に定期的に民生委員や地域包括支援センターに訪問し情報共有を図ります。	感染症対策が主となり、地域に出向くことが難しいでした。	コロナウイルス対策で、外部との交流は難しい項目だと思います。	地域ケア会議等に積極的に参加し、地域での生活を支えます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	困っているケースや地域の事などの事例検討会を開催します。	会議の開催が制限された状態であり、取り組めませんでした。	コロナウイルス対策で、会議もままならない状態でした。	施設の取り組みをわかりやすく伝え、委員の皆さまから、地域の情報や課題を聞き、施設の取り組みに生

				かしていきます。
F. 事業所の 防災・災害対策	地域の消防団と連携を強化するため非常災害緊急連絡網に地域の消防団長の連絡先を入れ、防災図上訓練を一緒に行います。	総合防災訓練の見学をお願いし、意見や助言をいただきました。地域の消防団との図上訓練は、できませんでした。	災害時の施設の役割は大きいと思います。施設は頼りになると思います。	施設の防災計画等を配布し、理解してもらい、地域の防災状況等の意見を伺います。